

平成30年度第3回総合教育会議 会議録

1 会議の名称 平成30年度第3回総合教育会議

2 会議の日時 平成31年3月14日(木) 午後1時30分～午後3時00分

3 会議の場所 中之条町役場 応接室

4 会議に出席した構成員

町長	伊能 正夫
教育長	宮崎 一
委員(教育長職務代理者)	登坂 初夫
委員	清水 博巳
委員	小菅 加代子
委員	高橋 久夫

5 会議に出席した職員

こども未来課長	宮崎 靖
生涯学習課長	富沢 洋
教育指導係長	矢嶋 将之
総務係長	飯塚 和子

6 会議を傍聴したもの

なし

7 議 事

(1) 平成30年度の総括について

- ・中之条町適応指導教室の状況について
- ・英語教育の取り組みについて(英語検定料補助金・イングリッシュサマーキャンプ)
- ・テーブルマナー教室について
- ・六合中学校検討委員会について
- ・児童生徒の状況について

(2) 平成31年度における取り組みについて

- ・中之条町適応指導教室の指導員増員について(こども未来課)
- ・アウトメディアのさらなる推進について(生涯学習課)
- ・読書活動の推進について(生涯学習課)

(3) その他

8 会議における議事の経過及び発言趣旨

○ 開会(こども未来課長)

○ 町長挨拶

平成31年度の予算総額は100億7,700万であり、昨年と比較して、約1.2%の減額になった。しかしながら、予算総額が減る中ではあるが、教育費予算は1.2%増額している。教育に力を注いだ予算であり、施設整備・修繕等の他、学校の支援員等の確保を行い教育の充実を図っている。

○ 教育長挨拶

委員各位には、昨日の3月の定例教育委員会議に引き続きご出席いただき、感謝申し上げます。次年度に向けて、管内校園所長会議で、幼稚園、保育所、学校が連動して一体となった教育を展開するように指示をした。担当教諭が同じ考えを共有しながら進められればと考える。

○ 議事（議事進行 町長）

（1）平成30年度の総括について

（こども未来課長、教育指導係長から説明）

- ・現時点で、6名が適応指導教室に通室している。
- ・適応指導教室に通室している1名に、通学する傾向が見受けられ、2学期は別室当校をし、改善の兆しがあるようだ。
- ・適応指導教室の指導員は、保護者と頻繁に面談し、保護者の心の安定が図られている。
- ・県総合教育センターから委託されている臨床心理士の自立支援アドバイザーから、当適応指導教室について高評価を得ている。開設当初から、滑り出しの良い1年であった。
- ・英検取得状況については、昨年度と比較して、準2級以上の取得数が大幅に増加している。今後は、補助利用の促進を行いたい。
- ・今年度、新規に実施したイングリッシュサマーキャンプには、小学生と中学生の合計15名が参加した。調査結果から、「参加しようと思ったが、都合が合わなかった」という児童生徒が一定数以上いることがわかった。このような児童生徒は、日程のタイミングが合えば参加する可能性がある。ただ、「知らなかった」という児童生徒もいるので、広報について工夫する必要がある。
- ・「ふるさと体験事業」のヘリコプター搭乗体験事業を中止した。新たな事業として、平成30年12月10日（月）に前橋の群馬ロイヤルホテルで、テーブルマナー教室を実施した。地元産の食材を利用し、生徒に好評であったようだ。
- ・平成30年8月3日（金）から、平成31年3月26日（火）まで、合計7回の六合中学校検討委員会が開催される。3月26日の最終の検討委員会で、報告案が出せればと考えている。
- ・児童生徒の状況として、いじめ件数は、例年に比べると件数が数倍になっている。いじめの定義を拡大し、「被害児童生徒等が心身の苦痛を感じているもの」と定義されたため、軽微なものも計上しているため件数が増えた。また、よく学校が見取っている成果であると考えている。

【質疑・意見等】

（町長）

- ・最近、いじめの問題が報道されている。尊い命を失ってしまわないようにしなければいけない
- （教育長）

- ・月1回のアンケート調査を行い、相談が訴えられる体制がある。児童生徒と面談をして、学校内で情報共有している。管内校園所長会議において、できるだけ早い情報のキャッチが必要だと話した。また、児童生徒にも我慢や、耐性も育みたいと思っている。

(2) 平成31年度における取り組みについて

(教育指導係長、生涯学習課長から説明)

●中之条町適応指導教室の指導員増員について

- ・当教室は学校に足を踏み入れることのできない児童生徒を対象にした学校外の施設である。
- ・県総合教育センターから委託されている臨床心理士の自立支援アドバイザーから、今後の運営について指導・助言があった。女子児童生徒の在籍が多いため、女性指導員を配置し、受け入れ態勢を整備することが望ましいという。
- ・指導員増員により、学校や保護者との連携が取りやすくなり、対応の幅が広がると考えられる。

●アウトメディアのさらなる推進について

- ・今までの、アウトメディアの推進の取組を説明した。アウトメディアが浸透していない町村もある。吾妻教育事務所からは、中之条町はアウトメディアが進んでいると言われている。
- ・町アウトメディア推進委員会は、年3回開催している。
- ・文部科学省は、携帯電話やスマートフォンの学校持ち込み原則禁止を見直すことを検討していると新聞等で報道された。しかし、持ち込みが解禁になれば、SNSが関わるネットいじめ等の対策が必要になる。
- ・アウトメディアについては、平成31年度も引き続き取り組んで行く。担当職員のスキルアップが求められるので、アンテナを高くして情報を得ている。

●読書活動の推進について

- ・全国的な傾向で、読書離れが進んでいる。ツインプラザ図書館職員に聞いたところ、SNS利用の影響であろうか、特に高校生への貸出の減少が顕著になっているという。また、午前中の利用者も減っており、特に子供をもつ母親層が減少している感覚があるという。
- ・子供は読書をすることで、読解力や想像力、思考力、表現力を養い、自ら学び知る喜びを持つ。
- ・読書を親しむ習慣は、幼児期からの発達段階に応じて取り組む必要がある。全国的に、高校以上になると本を読まない層が増えている。中之条町の小中学生は、全国平均を上まわっているが、中学生になると大幅に読書時間が短くなっている。中学校で読書時間が30分以内の子供は、高校生になると読書しない傾向が見受けられる。子供の読書週間の形成が必要であり、町の図書館として何ができるか検討したい。

【質疑・意見等】

(委員)

- ・アウトメディアの件で、文部科学省が携帯電話やスマートフォンの学校持ち込みを解禁した。災害時の連絡手段として有効であることを踏まえたようだが、スマートフォンによるSNSを発端とした被害の方が怖いと思う。中之条町以外の自治体は、アウトメディアに熱心に取り組んでいない。吾妻郡内にも、広域的にアウトメディアを進めてほしい。
- ・いじめ問題も深刻になっている。アウトメディアを進めることは必要だろう。子供は、SNSで仲間外れにされていないか、不安な気持ちになるだろう。町ぐるみで、アウトメディアを推進していただきたい。
- ・携帯電話やスマートフォンを便利に使うのは良いが、弊害もある。スマートフォンで育児を行う現実もあるから無視はできない。今は、大人もスマートフォンでゲームをするし、eスポーツというものもある。ぜひ義務教育の間は、吾妻郡内で配慮してほしいと考える。
- ・携帯電話やスマートフォンは便利なものであるが、子供に判断ができないうちに、与えるのは良くないであろう。LINEを止めても成績は回復しないという。大人が子供に被害を与える

悪質な場合もある。アウトメディアは浸透させていきたい。

(教育長)

- ・スマートフォンを持っている子供はいると思うが、アウトメディアを推進しなければ、スマートフォンをより多くの子供が持つようになる。保護者の意識の差も影響する。

(委員)

- ・中之条町は、公には携帯電話を持たないことになっているので、保持の抑止力になっている。

(町長)

- ・中之条町は意識が高い。町村会にも伝えるが、子供は一旦持ってしまうと禁止が難しいと思う。意識がゆるまないように推進してほしい。場合によっては、吾妻郡内全域で所持を制限することが必要になるかもしれない。
- ・適応指導教室は教育効果が出ている。

(教育長)

- ・通級していた生徒の1名は高校に合格し、卒業式を迎えることができた。中学校卒業後も、町内の子供であるので、続けて関係性を持ち支援したいと考える。

(3) その他

【質疑・意見等】

(町長)

- ・学校給食費の無償化は慎重に考えていたが、この度、子育て支援の一貫として平成31年4月から実施する。財源はふるさと納税である。平成31年10月からは、国の施策により保育料が無償化される予定である。保育所保育料は、保育の料金と給食の費用が合算されている。国の施策の保育料無償化は、給食の費用は含まれていないようだ。今後は、保育所の給食費分も無償化を行いたいと考えている。また、0・1・2歳児についても保育料の無償化を検討している。

(委員)

- ・保育料が無償化されると、保育所を希望する保護者が増えるのではないか。

(町長)

- ・お見込みのように、保育所を希望する保護者が増加すると思われるが、就労証明が必要であるから全ての保護者を受け入れることはできない。
- ・既に、嬭恋村は保育料を無償化している。今後は、幼稚園教育の魅力が必要になる。

(教育長)

- ・幼児教育の無償化について、危機感を持っている幼稚園職員は少ないようだ。各幼稚園で英知を集結し、特色化を図るように指示している。
- ・沢田幼稚園は、通学区域を弾力化したことにより、新入園希望者8名のうち、4名が中之条幼稚園区域から通園する予定である。沢田幼稚園は、早朝保育と延長預かり保育を行って、特色化を図っている。

(委員)

- ・午前中の母親層の図書館利用が、減少しているようだが、ツインプラザ図書館は立地の場所が良いので、ぜひ利用いただきたい。

(教育長)

- ・六合中学校検討委員会は、平成31年3月26日(火)が最終日となる。その後、検討委員会

から、町長と教育長に報告書が提出される予定である。

- ・平成31年度中に方向性をまとめるため、総合教育会議の回数を増やし、六合中学校のあり方について特化して、協議することになる。

9 閉会（こども未来課長）